

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2590100059
法人名	ウエルフェアー株式会社
事業所名	グループホームみちくさ
訪問調査日	平成 21年 3月 25日
評価確定日	平成 21年 3月 31日
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

作成日 平成21年3月26日

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2590100059		
法人名	ウエルフェアー株式会社		
事業所名	グループホームみちくさ		
所在地	滋賀県大津市稻津1丁目3番9号 (電話) 077-536-2435		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク	評価確定日	平成21年3月31日
所在地	東京都千代田区九段北4-1-9-4F		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】(20年12月19日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 7月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 16人、非常勤 人、常勤換算 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分		
------	--------------------------	--	--

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	25,800 円
敷 金	有() 円	無()	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 180,000 円 無()	有りの場合 償却の有無	有() 無()
食材料費	朝食 300 円 夕食 450 円 または1日当たり 円	屋食 450 円 おやつ 100 円	

(4)利用者の概要(12月19日現在)

利用者人数	18 名	男性 9 名	女性 9 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.8 歳	最低 70 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大津市民病院、くろづ外科医院		
---------	----------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設以来2年9ヶ月が経過し、職員の定着度も良く、ゆったりとした生活の場となっている。理念としている『自分らしく、いきいきと、健康で、笑いながら楽しく過ごす』の実現に向けて運営されている。利用者の得意なことを尊重し、畑仕事・園芸・漬物など生活に結びついた役割を果たす取り組みがなされている。内部の季節行事を始め、2つのユニットごとに外出の活動が多数行われている。(公園見物、喫茶、墓参、初詣など) 利用者の『寄り合い』会合が毎月実施され、ホームからの情報の伝達、利用者からの希望や意見などの情報交換が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重 点 項 目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 課題であった地域との交流は、相互の行事などへの参加により、次第に進みつつある。一方、職員の研修の計画的な実施は、内部研修はあまり行われていないが、外部の研修への参加は進められ、報告も行われている。また、家族との意見の収集・反映については、外部評価時のアンケート調査と、家族の来訪時の面談などで進められている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回は、ユニットリーダー2名と管理者によって、自己評価を実施したが、今回は、全職員がそれぞれ自己評価した。それをユニットごとに話合い、総括する形で、ホーム全体の自己評価にまとめられた。各職員の気づきは多く、ホームのあるべき姿を考えるなど、業務の理解が進んでいる。研修を受けたい希望も出されるなど、成果が得られている。
重 点 項 目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 構成メンバーは、「よくする会」、介護相談員、利用者家族代表、地域包括センターと管理者・計画作成担当者であり、今年度3回実施された。討議内容は、利用者状況報告・実施した行事や出来事の報告、他のGHの情報・介護保険制度の一部の変更点・感染症の流行対策・今後の行事の説明などであった。地域との連携推進については、昨年からの継続であったが、あまりあせらずに、地道に進めるなどの意見が出されている。今後は、多方面のメンバーの参加の検討が必要と思われる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族への報告は毎月一回郵送している。担当職員による利用者の「状況報告書」と、金銭管理表、施設の「みちくさ通信」を同封したものである。家族が来訪できない点も考慮したものである。今年度は、ホームにおいて、ターミナルケアが2件あった。医師・看護師・ホーム各職員の分担を明確に、準備を行い、職員の努力で対応ができた。今後も同様な、家族の希望に対応することが重要になろう。
重 点 項 目 ③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 開設から3年未満であるが、徐々に地域との連携が進んできている。自治会で行う一斉清掃や運動会などにホームから職員とともに利用者も参加している。一方、ホームには、中学生の職場体験学習の来訪やボランティアも受け入れている。また、地域の高校や社会福祉協議会の依頼で、管理者や認知症ケア専門士が学生や一般人への福祉理解の講義に行き、地域貢献を図っている。一方、「よくする会」とも継続して、友好的な関係構築につとめている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で、利用者個人の『自分らしい』暮らしを支援し、ゆったりとした日常が楽しめるように理念を示し、『みちくさ通信』に掲げている。ホーム玄関には、理念を額に示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新入職員の時に説明し、日常の介護に活かすようにしている。また、ケース会議・全体会議やユニット会議など職員が集まるときに理念に基づいて指導が行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、運動会や一斉清掃などに参加している。地域住民との会「よくする会」との交流も行われている。利用者の買い物・美容・喫茶店などへの外出も、次第に近隣との交流にもなっているとの事である。	○	今後も、自治会や近隣の人々との日常の交流をはかるよう各種の工夫を進められたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、全職員が評価をし、それをフロアごとに検討するステップを行った。ホームを運営する為に必要なことの理解や職員が留意すべき点などが理解されたとの事である。知識技能を得るために研修の希望が出ているなど、今後の改善の方向が見いだされつつあると判断される。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、3回実施されている。介護保険の一部改訂や感染症の流行など、外部の変化に対しての情報が議論されている。地域との連携については、あまり急がず地道にとの意見もあったようだ。市の介護相談員も参加し、ホーム内を客観的な目で見られたことなど改善のヒントが得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所主催の、月例の「介護サービス事業所の情報提供会」にも必ず出席して、情報を得ている。デイサービスや他の高齢者事業の情報も将来のホームのあり方に参考になるものである。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回家族に報告を郵送している。担当職員の一ヶ月間の利用者の心身の状況の報告「状態報告書」(A4版1枚)と金銭管理表、「みちくさ通信」や行事の報告と写真なども合わせて送付されている。なかなか来訪できない家族に好評であるという。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情をいつでも受け付けることを家族に示している。職員にも電話の受け方なども指導している。日常の家族の来訪時には、意向や相談あるいは不満を聞きとって記録している。	○	今後は、家族アンケートなどを送付して、家族の意向や相談あるいは不満な点などを収集し、運営に反映する方向で進められたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や交代は少ないが、発生したときは、前の職員と新任の職員が業務を並行してを行い、利用者が見慣れたころに、交代するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の計画的研修(特に内部研修)は殆ど実施されなかつた。外部研修は、参加し終了後に報告が行われて共有されている。今年度末に内部勉強会がスタートした。今後の実施とOJT(実地訓練)に期待するものである。	○	外部研修とともに、内部研修を計画して実施されたい。特に研修後、それが実行に繋がるような指導や点検に期待するものである。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淡海グループホーム協議会の会員になっている。事業所相互の情報交換や研修が進められている。法人内の他のグループホームとの職員交流(1人2日間を相互に交代するもの)が開始されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居契約前に、家族とともに見学に来てホームの状況や雰囲気を感じるように勧めている。お茶を飲みながら、利用者の役割や動き、会話や職員の動きなどを把握することに期待している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場おかげ、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理、買い物、畑作業、園芸を始め、得意なことをやるようにしている。漬物や地域の伝統行事などは職員と一緒に作業し、習うこともあるとの事である。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示のある利用者からは直接意見を聞いている。また、意思表示が困難な利用者は、日常の表情や行動から浮かび上がってくる事柄をその都度書式に書きとめている他、必要に応じて家族等から話を聞くなどで、意向の把握に努めている。	○	今後は、家族や関係者から、利用者本人についての情報を聞き取る機会を増やすことと、情報についてもできる限り内容を深めていくことも検討されたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたっては、利用者が今何をしてほしいかをケース会議の際に全職員で検討し、目標を決め具体的な支援内容を作成している。	○	利用者の意向を把握しようとする姿勢で、新たな気づきを見い出すよう取り組んでいる。今後は、ケース記録をはじめとする記録の意味や活用方法を学ぶ機会を持ち、ケアプラン作成時の有効な情報となるよう記載方法について職員間で共通の理解を深める取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは3ヶ月に1回見直しを行っており、計画と実際の支援状況について、確認をしている。計画と現状の乖離があった場合は、軌道修正し計画の変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族からの要望によりターミナルケアを実施する等、認知症対応の専門性を活かし、医療機関と連携を図って終末期ケアに取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、入所以前からのかかりつけの医師との連携を継続している。ホームの協力医療機関の医師が毎週往診しており、主治医として協力を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時の時点での終末期の在り方についてアンケートを行い、当初の家族の意向把握に努めている。また、今年度は2名の利用者の看取りを行ったが、重度化していく中で常に家族の意向を聞き取り、柔軟に対応できるよう体制を整備し、職員間の連携を強化する等、取り組んだ。	○	今年度の看取りの経験を振り返り、ホームとして看取りに対する考え方や職員間の理解と対応について、共通の認識を持つことが望まれる。他ホームの事例や今回の反省を生かし、さらなる支援の質の向上に取り組まれたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム内の空間が狭いことで、利用者及び職員の行動が目につきやすい環境にある。そのため、利用者への声かけの際には、声のトーンや言葉の遣い方に配慮しており、気を配るよう努めている。ただ、配慮に欠ける場面がある場合には、職員間で注意し合うよう取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	ホームでは、2ユニットそれぞれで利用者が主体となつて行っている「よりいい」を開催しており、日頃の生活でやってみたいことや困ったこと等について、話し合う機会をもっている。そこで利用者の意向を聞き取り、利用者主体で生活ができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、その日の食べたいものを利用者と話し合い、希望があれば一緒に買い物に出かけている。また、野菜の皮むきや盛り付けの手伝いや片付けは、できるだけ利用者に自発的に取り組んでもらえるよう声かけや状況をつくる等、努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は夜間時以外は、利用者の希望の時間に対応するよう体制を整備している。また、要望があれば入浴剤の使用や音楽を流す等の取り組みを行っており、入浴を楽しめるよう努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が以前から行っていた趣味(生け花や書道等)を行い、その作品をホーム内に飾ったり、畑作業(野菜づくり)や漬物・梅干し・梅酒づくりをして、それを食卓に出し実生活に活かすことにより、やりがいを見出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者個々の意向を吸い上げ、希望の場所への外出を行っている。また、単に場所に行くだけでなく、そこでの思い出を振り返る会話をする等、昔を懐かしむ機会をもつことで、利用者に関する新たな気づきが得られることもあります、外出に意味を見出すよう取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に我が家であることを意識し、利用者が外に出たいときに出られるよう夜間時以外は施錠をしていない。そのため、常に利用者の様子を見守り、安全面への配慮には留意している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中と夜勤を想定した火災訓練をそれぞれ年1回実施しており、避難経路の確認や連絡体制、職員の行動等の確認を行っている。また、戸外には災害用の備蓄品(食料・水・毛布・携帯トイレ等)3日分を常備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事及び摂取量等は、バイタルチェック表に記載し、日々の状況を把握している。昨年の評価で指摘があった水分量については、特に留意が必要な利用者には、別途シートで記録し、医師に状況を確認する等、取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは限られた空間であり、広いとはいえないが、デッドスペースにソファやベンチを設置し、くつろげる場所を設置している。また、季節の花を飾ったり、生き物を飼ったり癒されて居心地がよい空間づくりに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、本人の希望を尊重し家族等と相談して、レイアウトや持ち込むものを決めている。今年度は、配偶者の位牌を置きたいと1名の利用者から要望があり、仏壇を居室に搬入した。また、家族が来訪する際に、一緒にレイアウトを変え、居室内に変化をつけている利用者もいる。		

認知症高齢者グループホーム評価表
(自己評価)

法人名 : ウエルフェアー株式会社

グループホーム名 : グループホーム みちくさ

ユニット数 : 2 ユニット

総定員 : 18 人

総実員 : 18 人

グループホーム所在地 : 大津市稻津1丁目3-9

サービス向上委員会名 :

評価の責任者 氏名 : 管理者 中原一隆

評価年月日 : 2008年12月9日

前回評価年月日 : 2007年11月30日

自己評価票

(個別表)

【事業者名称】グループホームみちくさ

平成20年12月9日評価実施

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
I-1. 理念と共有					
1	1	①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者本位を基本とし、家庭的な雰囲気の中で「自分らしい」暮らしを支援することを理念に掲げている。		
2	2	②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時やケース会議などで「私らしく暮らす」為にはどのようなケアが必要かを検討し取り組んでいる。		
3		③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	定期開催している地域住民の会「よくする会」との交流会や運営推進会議、「通信」等で説明している。		
理念と共有 3項目中 3項目					
I-2. 地域との支え合い					
4		①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶や日常会話を積極的に行い、ホームでの行事へはお誘いをしている。最近は子供たちが遊びに来ることもある。	○	地域行事への積極的な参加と地域の人々が立ち寄れる機会を増やす。
5	3	②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、運動会などの地域行事や地元の清掃などにも参加しているが、機会は少ない。	○	地域との定期会合等で情報をお聞きし、職員や入居者が参加できる行事には参加していきたい。
6		③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	中学生の職場体験学習の受入や、認知症ケア専門士の職員が地域の学校で福祉理解教育の講義を行っている。	○	地域でのニーズと入居者の思いを把握するため情報収集を行い、入居者支援につながる地域貢献を考えたい。
地域とのつきあい 3項目中 2項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		I－3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	4	<input checked="" type="checkbox"/> ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が実施し、意見をまとめている。評価結果を会議・回覧で共有し改善点を話し合い取り組んでいる。		
8	5	<input checked="" type="checkbox"/> ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で委員から出た意見を基に職員と話し合い、改善に取り組んでいる。		
9	6	<input checked="" type="checkbox"/> ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常時、情報交換に努め、月例の情報提供会にも必ず出席している。		
10		<input checked="" type="checkbox"/> ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に応じ入居者や家族に説明し制度の活用を支援している。職員に資料等を配布しているが学習の機会が少ない。	○	社内での勉強会を開き、制度の理解を深める。
11		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待についての文献や資料を配布したり会議で徹底しているが、全職員の共通認識が十分でない。	○	社内での勉強会を開き、制度の理解を深める。

理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 5項目

		I－4. 理念を実践するための体制			
12		<input checked="" type="checkbox"/> ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の相談時から丁寧に説明している。		
13		<input checked="" type="checkbox"/> ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回、入居者と職員の話し合いの場を作っている。また、月1回介護相談員が来て相談に乗っていただいている。		
14	7	<input checked="" type="checkbox"/> ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、書面「状態報告書」にて暮らしぶりや健康状態等を報告し、金銭管理表も送付している。面会時に都度報告している。二月に1度「通信」を発行している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	<input checked="" type="checkbox"/> ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情受付方法について契約書や施設玄関に掲示し、公的窓口も案内している。運営推進会議にて家族に意見をお聞きしている。		
16		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の法人の管理者会議及び、事業所の会議を通じて現状を把握し、意見交換している。		
17		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の病状、介護にかかる時間を考慮し、職員の増員の確保に努めている。		
18	9	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この一年は職員の移動はほとんどなく、今後も代わる場合は影響を考慮し、十分に検討を重ね実施する。		

理念を実践するための体制 7項目中 7項目

I - 5. 人材の育成と支援				
19	10	<input checked="" type="checkbox"/> ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場リーダー、中堅、新人各々の職員の段階に合わせて外部研修に参加しているが、頻度は十分と言えない。	○ 外部研修と平行し、職員の関心の高いテーマやスキルアップの為の社内勉強会を定期的に開催したい。
20	11	<input checked="" type="checkbox"/> ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淡海グループホーム協議会の会員になっている。職員研修や、事業所相互の情報交換に努めている。また、近隣ホームと合同で救命講習を開いた。	
21		<input type="checkbox"/> ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	懇親会等を開催しているが、ストレス軽減までには至っていないと思われる。	○ 職員相互の親睦や他施設との交流も積極的に行いたい。
22		<input checked="" type="checkbox"/> ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働くように努めている	資格(ケアマネージャー等)試験合格時にお祝い金を贈っている。昇給や賞与が出せるように努力している。外部研修への参加も促がしている。	

人材の育成と支援 4項目中 3項目

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
		II-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23		<input checked="" type="checkbox"/> ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者とリーダーで面接を行い、ご本人の思いをお聞きしている。持ち帰った情報を書面にし、職員間で共有している。		
24		<input checked="" type="checkbox"/> ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者とリーダーが面談時に家族の不安や思いを十分に聞くよう努めている。持ち帰った情報は書面にし職員間で共有している。		
25		<input checked="" type="checkbox"/> ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズに合った支援は何か見極め、それに沿った在宅や医療施設等の選択肢もあることを説明している。		
26	12	<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来るだけ利用頂く前に見学に来て頂いている。入居してしばらくは様子を詳細に記録し細かな支援が出来るよう努めている。		
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 4項目					
		II-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	13	<input checked="" type="checkbox"/> ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や買い物、洗濯、烟など入居者一人一人が得意とすることで活躍する場を設け、職員が一緒にに行い教えてもらう等している。		
28		<input checked="" type="checkbox"/> ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の情報を家族と共有し、課題解決に向けて協力していただいている。		
29		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と一緒に外出したり、会いに行ったりする機会を作り実施している。行事の開催、衣替えや必要なものを届けてもらうなど面会の機会を設けている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族等からの情報を集め、会いに行ったり、手紙を出す機会を作り実施している。		
31		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	月に一度、入居者主催による「寄り合い」を開き、意見を交わしている。また調理や散歩などを一緒に行い入居者同士の親睦を心掛けている。		
32		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要な方には関係が断ち切ることがないように支援している。		
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 6項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
III-1. 一人ひとりの把握					
33	14	<input checked="" type="checkbox"/> ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情、行動、会話などから、本人の意向に沿うケアプランの作成(センター方式使用)に努めている。		
34		<input checked="" type="checkbox"/> ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入所された以後もセンター方式を用いてアセスメントを行い、情報収集に努めている。		
35		<input checked="" type="checkbox"/> ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々のケース記録や定期的に実施している会議で、全職員が現状の把握に努めている。		
一人ひとりの把握 3項目中 3項目					
III-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	<input checked="" type="checkbox"/> ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人が今支援してほしいことは何かを一番に考え、担当者を中心に全職員で話し合い作成している。	○	本人だけでなく、家族や関係者からの意見を取り入れるため話し合いの場を増やしたい。
37	16	<input checked="" type="checkbox"/> ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月ごとに見直しを行なっている。状態に変化があった場合は都度、新たなプランを作成している。		
38		<input checked="" type="checkbox"/> ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「ケアプラン実施表」でプランの実践状況を把握し、ケース記録にも個々の気づきを記入している。		
介護計画の作成と見直し 3項目中 3項目					
III-3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	<input checked="" type="checkbox"/> ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、日々の健康管理と要望に応じターミナルケアまで取り組んでいる。可能な限り要望に応えている。		
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 1項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		III-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40		<input checked="" type="checkbox"/> ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民謡のボランティアの来訪がある。地域住民の会「よくする会」や社協、行政等に必要に応じ相談をしている。		
41		<input checked="" type="checkbox"/> ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	協働して在宅復帰の可能性の検討を行なったりしている。		
42		<input checked="" type="checkbox"/> ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護事業の活用や、在宅復帰の可能性の検討を協働して行なったりしている。		
43	18	<input checked="" type="checkbox"/> ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と24時間医療連携をとっている。また本人や家族が希望される医療機関に受診いただいている。		
44		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて専門医に受診し、指示・助言を受けている。		
45		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護師が週1回訪問し、健康管理を行ってもらっている。		
46		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入退院時のほか、病状の経過や退院時期について医師・看護師、家族と情報交換を行っている。		
47	19	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方にについて、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に「重度化した場合の対応の指針」を本人・家族等に説明し、終末期のご意向を定期的に確認している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48		<input checked="" type="checkbox"/> ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「重度化の対応指針」を作成し、医師・看護師、職員、家族それぞれの役割と進め方を確認し合い、必要な知識の勉強会を行っている。		
49		<input checked="" type="checkbox"/> ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居される介護施設等への情報交換を行い、本人・家族等に対しても丁寧な情報提供を心掛けている。		
地域資源との協働 10項目中 10項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
		IV-1. その人らしい暮らしの支援			
		IV-1. (1) 一人ひとりの尊重			
50	20	<input checked="" type="checkbox"/> ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	排泄や介助が必要な場面で、さりげない支援を心掛けているが時折、配慮が足りないことがある。記録はイニシャルで記載している。	○	全職員が相手の立場に立った言葉掛けが徹底出来るよう、職員同士で注意し合える職場環境を目指す。
51		<input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	選択式など一人一人に合わせた話し方や説明の仕方をし、出来るだけ自分で決定して頂いている。		
52	21	<input checked="" type="checkbox"/> ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・消灯、入浴時間等の決まった時間は無い。“買い物に行きたい”など希望に沿って1日を過ごしてもらっている。		
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 3項目					
		IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53		<input checked="" type="checkbox"/> ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服選びやお化粧など個々に応じたおしゃれを支援している。理美容は本人の希望するお店に出掛けている。		
54	22	<input checked="" type="checkbox"/> ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を決めたり買い物に行っていいる。一緒に作ったり、後片付けもしている。食べられない物には別メニューで対応している。	○	色々な人が調理に参加できるように工夫したい。食事量が少ない人への対応も専門家(栄養士等)の意見も聞きたい。
55		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこ等、嗜好品を本人の状況(体調管理が必要な方は医師に相談の上)に合わせ提供している。		
56		<input checked="" type="checkbox"/> ④気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	介護記録表を用いて排泄パターンの把握に努めている。個々に応じた定期的なトイレ誘導を行っている。		
57	23	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴される方もおられる。夜間以外は本人の希望で入って頂いている。職員とゆっくり話をしたり歌を唄ったり楽しい時間のための工夫をしている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間安眠できるように日中の活動を促しているが、就寝・起床時間に決まりはなく、自分のペースで休息が取れるようにしている。ベットか畳を選択できる。		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 6項目					
		IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	24	<input checked="" type="checkbox"/> ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花や書道、畑の作業など本人に合った役割を持った生活を支援している。		
60		<input checked="" type="checkbox"/> ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は買い物時にご自分で支払いをしてもらっている。その他の方も自由に買い物ができる。		
61	25	<input checked="" type="checkbox"/> ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、毎日の食事の買い物、喫茶店などご希望に合わせて行っている。		
62		<input checked="" type="checkbox"/> ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	温泉や墓参りなど、普段から希望を聞いて、本人と計画し実施している。入居者全員で1泊旅行にも出掛けた。		
63		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時など自由に電話をしてもらっている。年賀状を出すことを積極的に勧めている。		
64		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご希望を聞いて本人の居室やリビングでゆっくり過ごして頂いている。	○	ご近所の方、知人、友人にも来ていただけるないようにしたい。
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 6項目					
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援					
65		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを、会議などで職員全体で確認し合っている。	○	常に意識できるよう定期的な勉強会や研修会への参加を行う。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	26	<input checked="" type="checkbox"/> ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上以外の全ての場所に鍵を掛けない徹底をしている。		
67		<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	キッチンフロアから全居室が見渡せる環境であり、職員が連携し、さりげなく入居者の所在を把握している。		
68		<input checked="" type="checkbox"/> ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態に合わせて注意が必要な物品を把握し管理している。包丁がある場所はドアストッパーを付けている。		
69		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	インシデントレポートを活用し、予防、再発に努めている。吸引ノズルなどを準備している。	○	定期的に事例を用いて「振り返り」を行う学習会を開きたい。
70		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の対応マニュアルがある。救命救急の訓練の講習を全職員受けている。		
71	27	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練を実施し避難経路を歩いて確認している。屋外に災害用備蓄品(食料・水など)を設置している。		
72		<input checked="" type="checkbox"/> ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居者の状態に応じて対応策について話し合っている。主治医から説明していただくこともある。		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 8項目					
IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		<input checked="" type="checkbox"/> ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化などの特記事項はケース記録以外に、申し送りや連絡ノートを活用し速やかな対応を行っている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74		<input checked="" type="checkbox"/> ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方の都度、薬剤師から薬の用法等の説明を受けている。ケース記録に薬の資料を添付しているが、個々の薬の効果等は把握しきれていない。	○	全職員が薬リストを確認し、常時情報を把握しておく。
75		<input checked="" type="checkbox"/> ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認し、便秘時には食物繊維の多い食品や水分摂取、散歩などを心掛けている。		
76		<input checked="" type="checkbox"/> ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを支援している。必要に応じ、歯科受診・往診も支援している。		
77	28	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに考慮した献立を心掛けている。パン、御飯、飲み物の好みに応じた提供をしている。	○	食事量の少ない方への栄養バランスと摂取方法を、専門家(栄養士等)に相談する。
78		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、予防・対策に努めている。インフルエンザ予防接種は入居者・職員全員が受けもらうようにしている。	○	定期的に勉強会を開催する。
79		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日使う分だけ購入する。調理器具、台所の清潔保持を職員で決めて実行している。		
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 7項目					
		IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
		IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり			
80		<input checked="" type="checkbox"/> ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	木や花を植えて、門扉や玄関は普通の家の雰囲気している。		
81	29	<input checked="" type="checkbox"/> ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に入居者が生けた花や写真を飾っている。出来るだけ掲示物などは貼らず普通の家庭の雰囲気を意識している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		<input checked="" type="checkbox"/> ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思 いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間ながらもテレビを共有するス ペースを2ヶ所設け、ゆっくり過ごしてい ただける。	○	施設が小さいため、死角が無く、1人 になりたい時は居室しかない。庭などの利用する機会を増やしたい。
83	30	<input checked="" type="checkbox"/> ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃から入居者・家族と相談し、出来るだけ慣れ親しんだ物・環境に囲まれ生活していただけるようにしている。		
84		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝・夕に職員が換気・温度調節を行って いる。ご自分で管理されている方にも朝の掃除時と夕食後の入室時に声かけを行っている。		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 5項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やソファーの位置等も配慮している。安全に入浴頂く為に、必要に応じてバスリフトを使用している。		
86		<input checked="" type="checkbox"/> ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室前やトイレに表札をついている。トイレ内には手順を記した張り紙をしている。		
87		<input checked="" type="checkbox"/> ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に畑と花壇があり、野菜や花を育て収穫を楽しんでいる。又、日光浴や体操をしている。		
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 3項目					

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
↓○印欄		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項目		取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
↓○印欄		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「私らしく暮らす」為には入居者一人一人にとって何が大切なのか、何が「私らしい」のかを常に考えながら支援にあたっています。
その考えをケアプランに反映させて、一人一人に寄り添ったプラン作りを実現させています。

一人一人が出来ること、支援があれば出来ることを大切にし、日々笑顔のあふれるホームづくりが出来ています。

また、職員は常に「ポジティブ」な発想を意識するように心がけています。「出来ない」ではなく、「こうしたら出来る」という気持ちを心掛けています。

評価結果整理表

	個別表	□のチェック項目数
I 理念に基づく運営		
-1.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念と共有	3 項目/3項目
-2.	<input checked="" type="checkbox"/> 地域との支え合い	2 項目/3項目
-3.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための制度の理解と活用	5 項目/5項目
-4.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための体制	7 項目/7項目
-5.	<input checked="" type="checkbox"/> 人材の育成と支援	3 項目/4項目
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		
-1.	<input checked="" type="checkbox"/> 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4 項目/4項目
-2.	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6 項目/6項目
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		
-1.	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの把握	3 項目/3項目
-2.	<input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3 項目/3項目
-3.	<input checked="" type="checkbox"/> 多機能性を活かした柔軟な支援	1 項目/1項目
-4.	<input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10 項目/10項目
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		
IV-1. その人らしい暮らしの支援		
-1. (1)	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの尊重	3 項目/3項目
-1. (2)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	6 項目/6項目
-1. (3)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	6 項目/6項目
-1. (4)	<input checked="" type="checkbox"/> 安心と安全を支える支援	8 項目/8項目
-1. (5)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	7 項目/7項目
IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		
-2. (1)	<input checked="" type="checkbox"/> 居心地のよい環境づくり	5 項目/5項目
-2. (2)	<input checked="" type="checkbox"/> 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	3 項目/3項目

総合評価

I 理念に基づく運営 (<input checked="" type="checkbox"/> 5項目／5項目)について	「自分らしい」暮らしを支援することを運営理念とし、入居者一人一人の「自分らしさ」の追及に力を入れています。今後、職員研修の場を通して権利擁護や虐待防止などの制度の理解を深め、より一層の理念に基づく支援を行っていきます。
	地域との交流の窓口になつたいたい地域住民の会「よくする会」との定期的な会合を継続し、地域との友好な関係は築けていますが、当ホームらしい地域貢献の方法を模索しています。
	職員のストレスの軽減への取組みは課題であり、職員個々の悩み等を把握できる仕組みを構築し、やりがいのある元気な職場の雰囲気づくりに取り組みたい。
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 2項目／2項目)について	ご利用開始前から、本人と家族の不必要な気持ちや思いをお聞きし、お一人お一人に合った支援の方法をご説明しています。
	また、ご本人と家族、友人との関係が断ち切れないように、時にはこちらから出向くこともを行い、相互交流を支援をしています。
	入居者同士や家族同士の関係づくりとして、レクリエーションや外出行事、宿泊旅行も行っております。
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント (<input checked="" type="checkbox"/> 4項目／4項目)について	センター方式を用いたアセスメントを実施し、本人が今支援してほしいことは何かを全職員で話し合い、3ヶ月毎に計画を立案し、実施⇒評価⇒見直し⇒再計画の流れで支援を行っています。
	今後、社内勉強会等を通して職員同士で学び合い、より一層に入居者の気持ちに沿った質の高いケアプランの作成・実施に向け取り組みたいと思います。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 7項目／7項目)について	その人らしい暮らしを支援していくために、まず「その人」のことを十分に知り、理解する取り組みを全職員で行っています。
	今後、入居者への関わり方や支援の方法について、基本的に職員で話し合い、見直しを行っていきます。
	また、身体拘束しないケア、事故防止等の勉強会、社外研修への参加も積極的に行っていきます。
V サービスの成果に関する項目について	概ね入居者は「自分らしく」、穏やかに楽しい暮らしが出来ていると感じていただけていると感じます。
	今後、ご満足頂けていない内容と理由を職員全員が十分理解し、組織(チーム)でその解決に向け取り組みます。入居者、家族等のご意見、自己評価や外部評価の結果を十分に活用し、満足度のアップに繋げていきます。
	また、地域の人や家族、友人が気軽に遊びに来ただける雰囲気づくりと機会を増やしていきます。

☆サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

事業者名称 グループホームみちくさ

評価年月日：20年 12月 9日

前回評価年月日：19年 11月 30日

サービスの質の向上に向け取り組む課題		取り組み期間 (〇年〇ヶ月～〇年〇ヶ月まで)	改善に向けた具体的な行動	達成度評価	次期評価実施時期
評価項目番号	優先順位	内 容			
6 1	地域とのふれあいの促進	H21.1～21. 6	・入居者のニーズの把握 ・地域のニーズの情報収集 ・地域貢献に向けた具体的な活動の立案		21年 11月
21 2	職員のストレス軽減に向けた取組み	H21.1～21. 11	・他施設職員との交流会 ・親睦会の開催 ・クラブ活動(野球、旅行) ・管理者との個別面談		
10、11 3 78	権利擁護に関する制度、虐待防止、感染予防などの理解	H21.1～21. 11	・外部研修 ・定期的な勉強会の開催 (職員同士が講師となつて学びあう)		
19 4	職員を育てる取組み	H21.1～21. 11	・職員毎の年間研修計画の策定 ・外部研修、内部研修		